

○使用する用語の出典：電気学会 電気専門用語集 No.17「絶縁協調・高電圧試験」

電気学会 電気専門用語集 No.16「絶縁材料」

電気学会 高電圧試験ハンドブック

IEC Publication 60-1, 60-2, 60-3, 60-4,

High-voltage test techniques.

IEC Publication 52, Recommendations
for voltage measurement by means of
sphere-gaps (one sphere earthed).

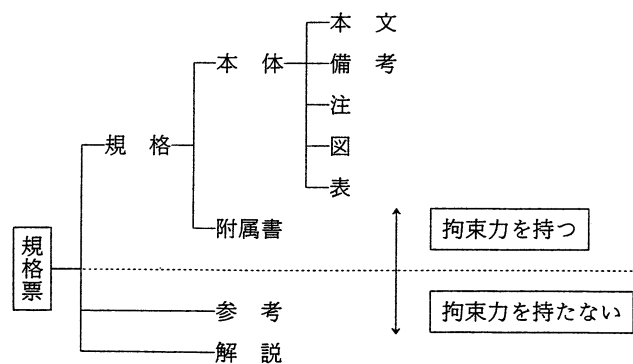
○制定および改訂

(制定および改訂年月日) (規格番号および規格名)

制定 1968年 1 月 **JEC-170**「交流電圧絶縁試験一般」

改訂 1988年 5 月25日 **JEC-0201**「交流電圧絶縁試験」

○規格の構成：本規格の構成は次による。



JEC-0201-1988

電気学会 電気規格調査会標準規格

交流電圧絶縁試験

1. 改訂の経緯と要旨

JEC-170-1978 (交流電圧絶縁試験一般) は昭和43年1月に制定され、その後昭和53年5月の改訂を経て今日に至っている。しかしながら、その後、交流電圧絶縁試験の分野における種々の技術的進歩や IEC 規格などの変遷により改訂の要望が高まり、また、規格の様式も“規格票の様式”として新たに改訂され、構成が変わった。このため、昭和58年2月に高電圧試験標準特別委員会にて改訂に着手し、慎重審議の結果、成案を得た。本規格は、昭和63年5月25日に電気規格調査会委員総会の承認を経て制定されたものである。

主な改訂点は次のとおりである。

- (1) 電気学会 電気専門用語集 No.17 (絶縁協調・高電圧試験) の刊行に伴い用語を見直し、これと整合させた。
- (2) 交流電圧絶縁試験のひとつとして新たに部分放電試験を取りあげた。また、他の交流電圧絶縁試験についても内容を見直し、変更した。
- (3) 試験電圧の周波数および短絡電流値などの試験条件を見直し、変更した。
- (4) 交流試験電圧の測定方法の記載順序を変更するとともに、標準球ギャップによる測定の大半を**附属書**に回した。また、波高値50kV 以下もしくは直径12.5cm 以下の球ギャップを用いて電圧を測定する場合には、照射を行うように定めた。
- (5) 人工汚損交流電圧試験については、試験方法として等価霧中試験法と定印霧中試験法を採用するとともに、UHV 級がいし汚損耐電圧・碍子汚損特性影響要因調査専門委員会、IEC および CIGRE での調査結果に沿って全面的に内容を見直し、改訂した。
- (6) 注水交流耐電圧試験についても、UHV 級がいし汚損耐電圧・碍子汚損特性影響要因調査専門委員会および IEC での調査結果に沿って、電圧印加時間を従来の10秒間から1分間もしくは10秒間に変更した。また、注水の抵抗率を $100 \pm 15 \Omega \cdot m$ に定めた。
- (7) 誘電正接試験に関し、測定装置を新たに追加するとともに、測定精度の記述方法についても見直し、変更した。

2. 引用規格名

JEC-193-1974	試験電圧標準
JEC-1201-1985	計器用変成器 (保護継電器用)
JIS C 1731-1980	計器用変成器, 標準用及び一般用
JIS C 1736-1980	計器用変成器, 電力需給用

3. 対応国際規格名

IEC Pub. 60-1 (1973) , High-voltage test techniques, Part 1 : General definitions and test require-